

三重県農業及び農村の活性化に向けた農業経営等の発展モデル

(1) 作成の目的

三重県の農業及び農村の活性化を図るためには、意欲ある多様な農業者が主体的かつ創意工夫を凝らして、自らの経営の安定や発展に取り組んでいくことが必要です。また、こうした農業者が三重県農業の担い手として持続的に経営を展開していくうえで、個々の取組のみに止まるのではなく、個別農業者やその取組も含めた地域の農的資源を有効に活用しつつ、これらを有機的に結びつけることなどにより、地域全体で生み出す価値を高めていくことも重要です。

このため、農業者の多様な経営実態や経営環境を踏まえつつ、三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画に基づく農業経営等の発展に向けた取組展開の方向を例示的モデルとして示すことにより、農業者や地域の取組促進に資することを目的として作成します。

(2) 取組モデルの区分

意欲ある多様な農業者の育成を図る観点から、経営の効率化や規模拡大等への取組により経営改善や安定化をめざすモデル、こうした取組を基礎として一層の効率化や多角化等をめざすモデルを示します。

<モデル区分の名称>

- 区分 経営の効率化や規模拡大等による経営改善・安定化モデル
- 区分 一層の効率化や多角化等による経営発展モデル

三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画の検討参考資料

区分Ⅰ 経営の効率化や規模拡大等による経営改善のモデル

経営類型	基幹作目及び経営規模	家族労働力	目標所得	想定地域
主穀中心		人	万円	
個別経営型(A)	水稲15.0ha、小麦10.0ha、大豆10.0ha 計25ha(自作地2ha、借地23ha)	2.5	1160	平坦地
〃(B)	水稲9.0ha、小麦6.0ha、大豆6.0ha 計15ha(自作地2ha、借地13ha)	2.5	440	中山間
集落営農組織型(A)	水稲15.0ha、小麦10.0ha、大豆10.0ha 計25ha(自作地25ha)	10	1050	平坦地
〃(B)	水稲9.0ha、小麦6.0ha、大豆6.0ha 計15ha(自作地15ha)	15	430	中山間
野菜作				
ハウストマト (ロックウール)	抑制Ⅰ型40a、抑制Ⅱ型30a、半促成Ⅰ型40a、 半促成Ⅱ型30a 計70a(自作地70a)	3	530	平坦地
露地野菜	キャベツ3.2ha、はくさい2.0ha、ばれいしょ0.8ha 計4.0ha(自作地2.0ha、借地2.0ha)	3	500	平坦地
果樹				
かんきつ	極早生温州0.5ha、早生温州0.5ha、不知火0.3ha、 カラ0.3ha 計1.6ha(自作地1.1ha、借地0.5ha)	2.5	600	中山間(伊勢志摩・東紀州)
花き・花木 施設鉢物	シクラメン50a、その他鉢物40a 計50a(自作地50a)	2	760	全域
茶				
個別経営型	せん茶3.0ha、かぶせ茶9.0ha、買い芽4.0ha 計12.0ha(自作地4.0ha、借地8.0ha)	2.5	610	北勢・中南勢
酪農				
フリーストール方式	経産牛100頭	3人	960	全域
肉用牛				
和牛雌肥育	黒毛和種雌150頭、稲わら収集17.9ha	2人	670	全域
養豚				
養豚繁殖肥育一貫	繁殖雌豚100頭、繁殖雄豚4頭	2人	640	全域
養鶏				
採卵鶏	採卵鶏50,000羽	2人	990	全域
銘柄肉用鶏	肉用鶏22,000羽(年間出荷100,000羽規模)	2人	660	全域

区分Ⅱ 一層の効率化や多角化等による経営発展モデル

超大規模の土地利用型農業法人経営

【経営発展のポイント】

- ★米・麦・大豆延べ 300ha の水田を、集落エリアを越えて広域で請け負う超大規模法人経営
- ★大型高性能農業機械を導入し、高い労働生産性を確保
- ★社員 5 人を雇用し、700 万円／人の給与を支払う雇用創出型の経営を実践

経営発展モデルの概要

◆経営面積

水稲 60ha
小麦 120ha
大豆 120ha

◆法人所得

3,000万円程度

◆労働力

役員 2名
常時雇用 5名
パート雇用 5名

さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★IT等の活用による生産管理のシステム化で作業能率・精度の向上を通じて低コスト化を実現
- ★直営の加工販売施設「おにぎり工房」で、生産した米と地元野菜の漬け物を具材に使ったおにぎりを直売
- ★平坦地の病虫害発生が少ない水田で有機米を栽培し、輸出ノウハウを有する事業者と連携した海外への輸出
- ★畜産農家との契約により、稲ホールクroppサイレージ用稲を湿田や麦跡水田で栽培することで、水田の高度利用と収益向上を実現



地域ぐるみで6次産業化に取り組む集落営農組合

【経営発展のポイント】

- ★集落一農場の営農組合を設立、地域の水田を最大限に活用して米・麦・大豆を生産
- ★地場農産物を積極的に使用する食品産業事業者との契約栽培で、大豆の実需を確保
- ★水田や水稲作業を営農組合に任せた農業者が、集落内の畑や不作付け地などを利用して直売所での販売向けに、多品目適量の野菜づくりに取り組む
- ★女性・高齢者等集落内の多様な人材が、特産品開発や農産物直売所運営に取り組む

経営発展モデルの概要

◆経営面積

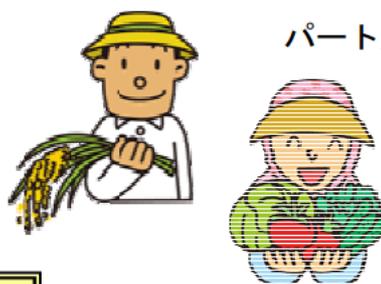
水稲	18ha
小麦	12ha
大豆	12ha
作業受託	
（田植え	3ha）
（稲刈り	5ha）

◆分配所得

1,500万円程度

◆労働力

主要オペレーター	7名
補助オペレーター	7名
パート雇用	4名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★農地・用水路、そこに棲む希少生物の保全活動などを通じた非農家や都市住民との交流活動を発展させ、不作付け地を活用した市民農園ビジネスを実施
- ★量販店との提携により、農産物直売所の支店を市街地のスーパーマーケット店舗内にオープン
- ★新たな転作作物としてソバを導入し、農産物直売所に「そば道場」を併設して都市住民等を対象にしたソバ打ち体験を実施
- ★地域で生産された農産物を食材に使う農村レストランの事業化

最新技術を用いた高収量・高品質トマト生産経営

【経営発展のポイント】

- ★低段密植による収量アップ（40 t / 10 a）と、少量培地による品質の向上
- ★高品質生産を強みとした量販店内直売コーナー等での有利販売
- ★作業工程を標準化し、パートタイム労働力の的確な配置を可能とすることで、雇用労働費を節減

経営発展モデルの概要

◆経営面積

トマト（ハウス）20 a
年間3.5作

◆法人所得

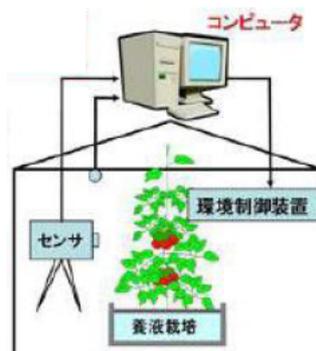
2,000万円程度

◆労働力

役員 3名
パート雇用2名

さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★施設の高度化による単収向上、養液成分の調整等新技术導入による機能性成分強化
トマトの生産に取り組み、収益向上や東アジア等海外輸出も視野に入れた販路開拓に挑戦
- ★試験研究機関や工作機械メーカー等が連携する栽培施設機械の試作開発へ積極的に協力することで新技术の開発・導入し、農作業の大幅な効率化を実現
- ★障がい者雇用への取組とユニバーサルデザイン農場化により、誰もが働きやすい環境を実現することで、作業効率を向上させ経営改善を実現



「年中みかんを届ける」かんきつの超大規模企業経営

【経営発展のポイント】

- ★地域内のかんきつ農家が共同で会社を設立し、企業型経営を展開
- ★かんきつの栽培から加工、販売までを行う6次産業化を実践
- ★温暖な気候を生かして、高品質、多品種のかんきつ類を、年中切れ目なく出荷
- ★市場出荷、産地直売、観光農園、ジュース加工など多様な販売に取り組む

経営発展モデルの概要

◆経営面積

栽培面積50ha

極早生温州
早生温州
不知火(デコポン)
カラ 他

ジュース生産

11,400本/年



◆法人所得

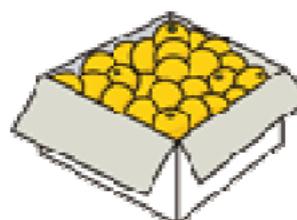
14,700万円程度



◆労働力

役員 13名

常時雇用30名
パート雇用5名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★かんきつ類に含まれる機能性成分に着目した健康ドリンクや化粧品等を、農商工の連携により開発、製造
- ★加工用途専用の生産園地を設定し、加工用原料を安定的かつ低コストに生産
- ★地域資源を生かした様々な特産品を集めて都市部に供給する「産地商社」として活動
- ★就職支援を行う公的機関、人材派遣会社、NPO法人等と連携して農外からの新規就農希望者の農業体験研修を実施しながら、実際に就農を希望する人の雇用や地域内農地の斡旋などに取り組む

なしとぶどう、直売と観光農園とを組み合わせた果樹経営

【経営発展のポイント】

- ★施設栽培を導入することで作期分散をはかり、露地と施設、なしとぶどうを組み合わせた大規模な経営を実現
- ★産地直売と観光もぎ取り園とを組み合わせ、収益性と労働効率を向上
- ★消費者との顔の見える関係を重視し、品質にこだわった完熟栽培を実践

経営発展モデルの概要

◆経営面積

なし 100a

（ 露地幸水 30a
ハウス幸水 40a
豊水、他 30a ）

ぶどう 120a

（ 露地巨峰 20a
雨よけ巨峰 50a
ハウス巨峰 他 50a ）

◆法人所得

2,500万円程度

◆労働力

役員 4名

（ パート雇用 2名 ）



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★加工用途専用の生産園地を設定して完熟生産を行い、おいしさにこだわったワイン、ゼリー等加工品の製造、直売を実施
- ★他果樹生産者等と直売所の共同運営に取り組むことにより、コストを下げながら、バリエーション豊富な県産果実を年中切れ目なく、地域内外の消費者に提供

大規模製茶工場を核に低コスト生産に挑戦する法人茶業経営

【経営発展のポイント】

- ★地域内の茶生産者が製茶工場の統合を契機に経営統合により法人化
- ★茶園管理の機械化、荒茶製造の自動化による低コスト生産
- ★構成員の茶園や地域内の離農者の茶園の面的集積と再整備により、栽培管理の効率化、生産コストの縮減を実現
- ★大型・中型乗用摘採機等を導入して、地域内の整備茶園の状況にきめ細かく対応

経営発展モデルの概要

◆経営面積

茶園 80ha
荒茶生産325t

◆法人所得

2,500万円程度

◆労働力

役員 4名
パート雇用2名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★抗アレルギー成分を含む茶品種「べにふうき」などの導入（改植）を進め、飲用向けや加工品等の様々な製品の開発、販売を实践
- ★欧米や東アジア等をターゲットにした緑茶輸出に向けた GLOBALGAP 等 G A P 認証の取得
- ★緑茶の消費拡大と経営の多角化を目的に、直営のアンテナショップ「緑茶カフェ」を開設し、緑茶と地域の菓子店やスイーツ店とのコラボによる茶葉や地元産果物を使ったスイーツの提供など、緑茶喫茶文化の定着とファンづくりに取り組む

消費者のライフスタイルを捉えた花木経営

【経営発展のポイント】

- ★消費者（使用者）ニーズに応えられる、多品種ツツジ類のコンテナ栽培による生産
- ★コンテナ栽培の集約的管理技術による栽培期間の短縮と適正な品質・商品管理
- ★ラベル付きコンテナの周年出荷による量販店等への販路を安定確保

経営発展モデルの概要

◆経営面積

ツツジ類 220 a

◆法人所得

1,000万円程度

◆労働力

役員 3名
常時雇用 2名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★ツツジ類に加えてグランドカバープランツ、コニファー等ガーデニング用途に適した緑化植物の生産を行うなど、多様な種類の花木生産に取り組む
- ★欧米や東アジア等をターゲットに、花木類の輸出に挑戦
- ★ハウスメーカー等との契約による屋上、壁面緑化向け商材の受託生産
- ★緑化植物に含まれる機能性成分を生かした商材開発に、異業種企業等との農商工連携により取り組む

地域連携と低コスト生産技術で実現する大規模肉用牛経営

【経営発展のポイント】

- ★繁殖牛 350 頭規模の超大規模な肉用牛一貫経営を展開
- ★自動哺育システムや肥育牛への TMR 給与等新技術の積極的な導入により、省力化を実現
- ★エコフィード（食品残さの飼料化）や稲わら・麦稈等地域内未利用資源を活用して生産コストを低減
- ★集落営農組織や土地利用型農業法人等と連携し、地域資源循環型農業を実践

経営発展モデルの概要

◆経営面積

肉用繁殖牛 350 頭
育成・肥育牛 700 頭

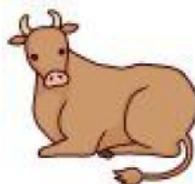
稲わら・麦わら
収入面積 150ha

◆法人所得

2,000万円程度

◆労働力

役員 2名
常時雇用 6名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★自家生産した牛肉を直売する精肉部門やファーマーズステーキハウスの事業化
- ★大手百貨店や通信販売事業者等とのタイアップにより、お中元やお歳暮などの贈答向け販売やお取り寄せカタログ販売に取り組む
- ★「アニマル・ウェルフェア」（動物の幸せを考慮して飼育すること）に基づく飼養管理と、一貫経営の強みを生かした子牛の誕生から出荷に至る全ての管理情報の開示により、自然や環境等保護意識の高い顧客層への高付加価値販売に取り組む
- ★食肉輸出を手がける商社等との契約により、海外の日本食レストランへの輸出に挑戦

地域とのふれあいを大切にするミルクファーム

【経営発展のポイント】

- ★ファーム内の工房で、搾りたて牛乳をジェラートに素早く加工しそのまま販売
- ★地元産の食材（いちご、みかん、お茶等）を積極的に使った商品の開発
- ★地元を中心にリピーターを客層とし、移動販売車を導入しイベントに積極参加することにより集客力の向上に取り組む

経営発展モデルの概要

◆経営面積

経産牛 100 頭規模
ジェラート製造・販売
原料生乳 1.6 t



◆法人所得

1,500万円程度

◆労働力

役員 3名
常時雇用 1名
パート雇用 2名



さらなる経営発展につなげていく着眼点

- ★ET（受精卵移植）技術を活用して、乳牛の借腹による優良血統和牛子牛の生産
- ★新鮮な牛乳を使用したナチュラルチーズ、バター等加工品の製造・直売
- ★ジェラート工房をスイーツ工房に発展させ、地元産の素材（小麦粉、果実、卵等）や自家生産牛乳を使用した多彩なスイーツ生産に取り組み、直営又は食品産業事業者との連携により「ミルクカフェ」をオープン

